

● なぜ どもるのか ●

原因としては、遺伝や脳の機能の問題、あるいは音韻の問題が関係しているなどいくつかの説がありますが、はっきりしたことはわかっていません。

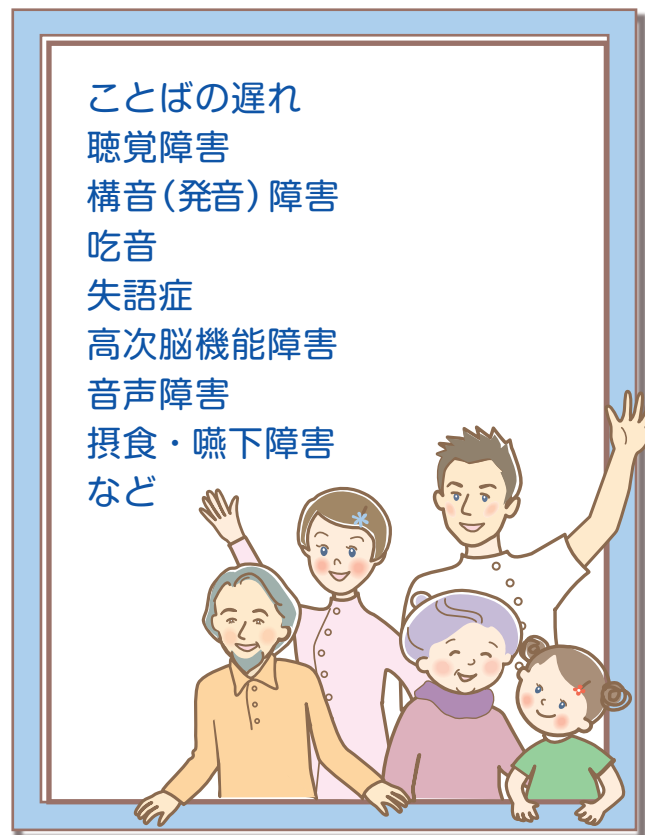
幼児期に成長の途上で一時的に「話したい」という気持ちに発語器官の運動が追いつかずに起こることもあれば、緊張や精神的なストレスによって起こることもあります。

話の内容ではなく話し方についての注意を繰り返したり、ストレスが多い生活が続くと症状が悪化することがあります。

子どもの話をよく聞き、緊張する場面やストレスを減らすと症状が軽くなることもあります。



言語聴覚士がお手伝いします



「ことば、食べること、きこえ、コミュニケーション」に障害のある方やご家族を支援します。

一般社団法人
福岡県言語聴覚士会

事務局

TEL.080-1776-5108

<http://homepage3.nifty.com/fukuoka-st/>

吃音

* 子ども編 *



● 気になることチェックリスト ●

- 話そうと思ってもことばが出ない
 - ・ことばの一部をくり返す
「お、お、お、おかあさん」
 - ・引き伸ばす
「お—————かあさん」
 - ・つまる「・・・おかあさん」
- ことばがつまることを気にして人前で話したくない
- 話すときに苦しそう(顔が赤くなるなど)

● 吃音とは ●

話したい気持ちがあるのに、ことばがスムーズに出ない状態を「吃音」と言います。例えば、「お、お、お、おかあさん」とことばの一部をくり返したり、「お——かあさん」と伸ばしたり、ことばがつまったりする症状がみられます。

話そうとする時に力が入って顔をしかめたり、はすみをつけるように足踏みをしながらことばを出そうとすることもあります。

スムーズに話せないために、話を途中でやめてしまったり、話すことを避けたりすることもあります。

幼稚園などでみんなの前に出て話すときにはどもるのに、仲の良い友達同士で遊んでいる時にはスムーズに話せるなど、場面によって違う場合もあります。

また、ひどくどもる時と、あまりどもらない時があるなど、時期によって波がみられることもあります。

吃音には成長の途上で一時的にみられるものもあり、大半はなおると言われています。いずれにしても幼児期は周囲の関わり方が大切です。

● 家庭でできること ●

- ① 生活のペースは子どもに合わせて、ゆったりしたものにしましょう。大人のペースで急がせることが多くないか見直してみましょう。
- ② 子どもの生活上のストレスに配慮しましょう。多すぎる習い事や我慢しなければならないことがしばしばあるなどの負担は減らしましょう。園の行事などでも子どもにとってはストレスになることがあります。
- ③ 話し方についての注意はやめましょう。「ゆっくり言って」「落ち着いて話してごらん」などと話し方を意識させすぎないようにし、せかさず最後まで子どもの話を聞きましょう。また、周囲がゆっくりしたペースで話しかけるように心がけましょう。
- ④ 吃音の症状は良くなったり悪くなったり変化することがあります。一喜一憂せずに長い目で見守りましょう。



● 相談する目安 ●

子どもの話し方について不安を感じた時や、子どもが自分の話し方を気にするようになった時には、心理士や言語聴覚士に相談しましょう。

これまでの経過やことばの状態を見て、家族での対応の仕方や生活面で気をつけることをアドバイスしたり、遊びを介した心理療法を行ったりします。また、場合によっては楽に話す指導を行うこともあります。

